

平成 20 年 3 月期 第 1 四半期決算のポイント

1. 実績について

(単位：億円)

	連結			単体		
	実績	前期比	前期差	実績	前期比	前期差
売上高	1,852	101.7%	31	1,093	104.5%	46
営業利益	90	112.2%	9	60	119.6%	9
経常利益	94	108.3%	7	87	144.7%	27
四半期純利益	36	67.3%	△ 17	44	97.7%	△ 1

<連結概況>…売上高、営業利益、経常利益で過去最高を更新。

● 売上高…前期から 31 億円の増収

→伊勢丹単体は、セールスのスタートが 6 月 30 日に繰り上がったこともあり、全店舗で前期を上回り、46 億円の増収となりました。特に本店は、6 月中旬に食品フロアをリモデルオープンさせ、前期に比べ 34 億円の大幅増収となりました。

→前年同四半期末に連結子会社であったバーニーズジャパンが連結除外になったことにより 38 億円の減収となりました。一方、海外百貨店グループや新店をオープンしたクイーンズ伊勢丹が大幅な増収となりました。

● 営業利益…前期から 9 億円の増益

→営業利益の増益に貢献した主なセグメントは、伊勢丹単体が好調であった百貨店業と、伊勢丹アイカードが堅調に推移したクレジット・金融業です。

● 経常利益…前期から 7 億円の増益

→連結に比べて、伊勢丹単体の前期差が大きくなった理由は、海外子会社のイセタンシンガポールからの配当金（連結上消去となる）が前期と比較して 18 億円増加したことによります。

● 四半期純利益…前期から 17 億円の減益

→特別損失として過年度時効商品券回収損引当金繰入額を 13 億円（伊勢丹 9 億円、岩田屋 3 億円）計上しました。

2. 業績予想について

(単位：億円)

	連結				単体			
	中間期		通期		中間期		通期	
	今回予想	前回差	今回予想	前回差	今回予想	前回差	今回予想	前回差
売上高	3,677	20	7,860	40	2,150	20	4,630	40
営業利益	119	9	310	10	88	9	220	10
経常利益	119	9	310	10	111	9	240	10
中間(当期)純利益	50	7	145	5	55	8	125	5

<業績予想のポイント>…第 1 四半期の売上及び利益の好調をうけ、中間期・通期とも上方修正。

● 単体

→通期で当初予想より売上高で 40 億円、営業利益・経常利益で 10 億円、当期純利益で 5 億円の増加を見込んでおります。これを達成すると売上高、各利益ともに前期を上回ることとなります。

● 連結

→子会社はほぼ当初予想通りに推移しており、単体の上方修正額と同額を連結においても上方修正しております。

以 上